講義名	アジアビジネス論					授業形態	
担当教員	上田　義朗	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 ３時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

今日のアジアビジネスの経営環境は大きな変革時期にあります。その主要な論点は次のようです。新型コロナ感染の世界的な拡大を契機にして、①中国と米国の関係の悪化、②２０１８年のＴＰＰ１１の発効、③ミャンマーの軍事政権の成立、④２０２２年のＲＣＥＰ発効、⑤ＤＸの進展、⑥ＥＶの開発と導入、⑦脱炭素経済に移行。⑧ウクライナ戦争。これらの要因が、日本を含むアジア諸国の企業経営に及ぼす影響を検討することが、本講義の主要な目的です。

本講義は、このようなアジア諸国の政治・社会・経済の情勢を「鳥の眼」から包括して把握し、企業経営レベルでは「虫の眼」から経営・ビジネスのノウハウや裏話を紹介し、これからのアジアビジネスの大きな動向（＝潮流）を「魚の眼」から検討したいと思います。

本講義の教材は、以下で紹介する独立行政法人「ジェトロ」・「アジア経済研究所」のネット情報です。だれもがいつでも閲覧できる教材を採用します。講義の方式は、対面講義が原則です。「予習」として参照するウェブサントや YouTube を事前に提示し、それについて対面で解説や質疑応答することを目標にします。

グローバルな視野を実際に体得するために、日々変化する最新のジェトロやアジア経済研究所の資料やデータを使用します。実践的な企画や発想を実行できるようにするために、議論・質疑応答を重視します。

このような「ハイブリッド講義」の実践を体験・協力してくれる受講生を歓迎します。

到達目標

１．アセアン諸国の概観やアセアン共同体の統合、さらに中国との関係について基礎知識の理解が深まる。

２．アジア諸国における日本企業の経営活動の実態や展望が理解できるようになる。

３．ＪＥＴＲＯによる各国とビジネスの膨大な資料を検索・活用できるようになる。

４．アジア諸国におけるビジネスで活躍する「心構え」また「視野」を有した人材育成することが長期的な目標である。

提出課題

教科書または参考図書に関する期末レポートを書いてもらいます。
レポート問題は講義中また講義情報に提示します。

短い意見やコメントは「レスポン」で提出してもらいます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

対面講義の中で言及します。

評価の基準

１．発言・レスポンとレポートを総合して成績を評価します。期末定期試験は実施しません。
たとえば当面、発言：２０%、レスポン：４０%、レポート：４０%。

２．特に出席は取りません。対面講義での発言とレスポンが評価対象となります。

３．総合的な評価で優秀な学生が９０点以上になるように配点基準を決めます。

４．対面講義で発言しにくい受講生は、メールでの意見の発表も発言として取り扱います。

履修にあたっての注意・助言他

１．対話式の講義をしたいと思います。

２．予習をオンライン講義、それに基づく対話や復習を対面講義とします。ただし、これは原則。つまり理想です。この理想のために、教員も受講生も一緒に努力してみましょう。

３．講義では、私自身の現在進行形のアジアビジネス活動も紹介します。

【注】・・・以下の教科書または参考図書はレポート課題という位置づけです。この内容についての質問も歓迎です。質問の例：「教科書の〇〇頁の△△の意味がよく分かりません。」「参考図書の〇〇と△△との関係は何ですか？」

教科書

.使用しない.				

参考図書

.東南アジア史１０講.	古田元夫	岩波新書	900	9784004318835

その他

⇒講義の教材として以下のウェブサイトを使用します。

【１】ジェトロのＨＰ　https://www.jetro.go.jp/

【２】アジア経済研究所のＨＰ　https://www.ide.go.jp/Japanese/

そのほか最新のアセアン関連図書を講義中に指示します。

授業計画

講義予定は最新の経済経営の動向によって変更があります。

１．講義の概要と教材の説明・・・教科書と教材ウェブサイトの概要を説明します。
２．ジェトロ／アジア経済研究所のＨＰを解説・検討する（１）：統計資料
３．同上（２）：アジアの動向１（世界とアジアにおける日本の位置づけ）
４．同上（３）：アジアの動向２（今、何が問題となっているか）
５．同上（４）：アセアン諸国の概観（ベトナム１）
６．同上（５）：アセアン諸国の概要（ベトナム２：「中進国の罠」・「自由貿易の罠」・「過大な外国依存の懸念」）
７．同上（６）：ＦＴＡ・ＥＰＡ・ＴＰＰ・ＯＤＡ・ＷＴＯ・ＲＣＥＰとは何か
８．同上（７）：中国の「一帯一路」構想とＡＳＥＡＮ共同体
９．同上（８）：ラオス・カンボジア・ミャンマーの動向（１）
10．同上（９）：同上
11．事例研究：アジアビジネスの実際と課題（１）
12．事例研究：アジアビジネスの実際と課題（２）
13．事例研究：アジアビジネスの実際と課題（３）
14．日本企業の課題と展望：外国人材の雇用問題
15．　総括：日本企業のアジア戦略を検討する

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は、対面講義の前にオンライン受講することを意味します。９０分～。
その内容は、講義連絡また講義中に指示します。
対面講義では、その解説と補足と議論をします。

復習については、前回の対面講義の内容やキーワードについて質問しますので、
準備をしておいてください。そのための復習時間：６０分～

教科書また参考図書を読み進めて、質問を考え、期末に課題レポート作成の準備する。９０分～

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

卒業認定・学位授与の方針における卒業時の人材について、特に次の２点に寄与する。
（2）知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
（4）自主・自立の精神を持った人材

また商学部における「グローバル経営コース」の下記の目標には、本講義の達成目標１～４は全面的に貢献する。
・・・「経営の仕組みや組織行動について、経営理論に基づき、自ら考え、理解できる経営のグローバルな側面に関心を抱き、グローバルな課題に直面する組織で現状分析を通して、具体的な改善や解決の提案ができる。」

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

すでに説明の通り、予習（ウェブサイト閲覧）と対面講義（復習と補足と議論）をセットにした「ハイブリッド講義」を実施する。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
１．株式投資ファンドの組成（岩井コスモ証券、販売終了）
２．海外進出のコンサルティング（現職：日本ベトナム経済交流センター副理事長）
３．複数業種の国際的なビジネスマッチング（現職：ネパールＨＲＤＩＣ社顧問、合同会社ＴＥＴ）
・・・研究上の論理的な整合性（＝理論）と、非論理的・情緒的な現実（＝実践）の『齟齬』と「統合」について、その理由や背景について私の経験と知見は、受講生の指導に活用できる。

備考

出席・発言・レスポンを重視します。講義に参加して対話を楽しみましょう。英語でも対応します。

質問は講義の間やその前後。メールでも歓迎です。これらには得点を与えます。
Yoshiaki_Ueda@red.umds.ac.jp